

企業と大学で拓く。
新しい領域へ。

学術研究推進機構

産業連携研究推進ステーション

Station for Academic-Industry Collaborative Research Promotion



CHIBA
UNIVERSITY



所長挨拶

産業連携研究推進ステーション
所長研究担当理事 関 実



近年、情報通信技術（ICT）の急激な進化によって、グローバルな環境において既存の産業構造や技術分野の枠にとらわれない新たな価値が生まれ出されるようになり、新しいビジネスや市場が生まれ、人々の働き方やライフスタイルにも変化が起こり始めています。とりわけ、IoT（Internet of Things）、AI（人工知能）、ロボット等の技術進歩を通じ、「第4次産業革命」や「Society 5.0」と呼ばれる急激な産業構造の変化が生じることが指摘されており、加速的に変化していく経済・社会環境の中、我が国が今後も持続的な成長・発展を遂げていくためには、科学技術の進展により持続的にイノベーションを創出し、我が国の産業の国際競争力を強化していくことが必要不可欠とされています。

そのためには、既存技術の発展のみならず、大学等による優れた研究シーズの創出と産業の社会ニーズが有機的に連携し、革新的なイノベーションを創出していくことも必要であり、今まで以上に産業連携研究の重要性が高まっています。特に、大学と産業が将来あるべき社会像等のビジョンを共に探索・共有し、基礎研究から実用化に至るまで、分野等の壁を越えた様々なリソースを結集させて行う『本格的な共同研究』を実現させることが求められています。

現在、日本の年間研究開発費は約19兆円（『我が国の産業技術に関する研究開発活動の動向』平成28年6月経済産業省）とされていますが、そのうち国・地方公共団体等による直接の負担は約2.2兆円（11.0%）であり、民間負担の約16.7兆円（88.6%）に遠く及びません。大学等に限っても、研究開発費約3.1兆円のうち国の負担額は約14.0%に過ぎません。一方、大学等の研究開発費に占める企業等からの負担割合も約2.4%（900億円）に留まっており、米国の4.6%、英国の4.1%、ドイツの14.0%等と比べて低い水準にあります。

国の財政状況が益々厳しくなっていく中、大学が優れた研究シーズを創出しつづけるためには、産業界と連携したさらなる研究力強化も一つの解決策として期待されています。本学ではこのような社会的責務を果たすため、平成26年10月に『産学連携・知的財産機構』を、学術研究推進機構『産業連携研究推進ステーション』に改組し、産業連携研究推進担当URAの配置や企業等とのコーディネート活動の強化等により、産業連携研究推進に向けた様々な取組を実施する体制を整備しております。

平成28年度には「地域科学技術実証拠点整備事業」の採択を受け、輸入大国日本が輸出できる数少ない元素の一つである「ヨウ素」について、国内産出シェア75%の千葉県の強みを活かし、千葉ヨウ素資源イノベーションセンター（CIRIC）を設置することとなりました。当該センターは、ヨウ素関連企業（産）・千葉大学（学）・千葉県（官）が知・人材を集約し、千葉が世界をリードする産学官連携拠点として、ヨウ素資源の活用に係る最先端科学を駆使した研究開発を推進していきます。

また、平成23年度に開所した千葉大学サイエンスパークセンター（CSPC）や、平成24年に設置した千葉大学知識集約型共同研究拠点（KCRC）も、体制強化されたステーションの下で活発に共同研究活動を続けており、千葉大学ベンチャービジネスラボラトリー（VBL）では、ベンチャー創出に向けた研究プロジェクトの推進、ベンチャーマインド醸成のための教育プログラムの運営等に積極的に取り組んでいます。

以上のような本学の様々な取組みが、産業連携研究の飛躍的な推進・拡大に貢献できるよう、一層の皆様のご支援・ご協力を賜ることができれば幸いです。

ステーション概要

産業連携研究推進ステーションは、千葉大学の研究資源を最大限活用し、
企業と多様に連携して新産業やイノベーションの創出に貢献します





① 産業連携研究推進室

大学の研究成果、特許情報を発信し、産業界との技術交流や情報交換を促進!

● 技術相談

企業が直面している問題に対して技術相談(常時)



● 研究成果公開イベント

企業や地域社会との交流、連携構築

- ・産学官連携イノベーションフォーラム
- ・千葉大学「新技術説明会」
- ・若手研究者フロンティア技術説明会

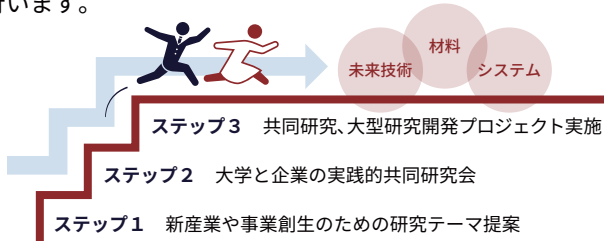
● 国立六大学連携コンソーシアム新技術説明会

ライセンス可能な特許(未公開特許を含む)について発明者自身が企業関係者を対象に実用化を展望した技術説明を行い、広く実施企業・共同研究パートナーを募ります。



● 新産業創生プロデュース

新産業につながるテーマについて提案や議論から大型研究プロジェクトの実施にいたるまで、長期ビジョンに立ったプランニングを行います。

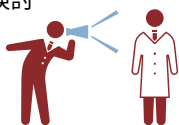


② 知財管理移転室(千葉大学TLO)

大学の研究成果を知的財産として権利化、企業への技術移転でビジネス活用をバックアップ!

学内研究者向け

- ・特許、意匠、実用新案、プログラムなどの知的財産を権利化
- ・知財セミナーにて研究者や学生の知的財産の理解促進
- ・マーケティング検討会にて技術移転先の検討
- ・発明発掘や特許出願へのアドバイス
- ・技術移転後、発明者等への対価支払
- ・研究成果(発明)を用いた起業支援



一般企業向け

- ・関心をもつ企業へ技術移転(ライセンス)
- ・技術交流会運営(一般企業等の会員募集)
- ・特許情報を技術交流会会員へ優先的開示



③ URA室(産業連携研究推進)

企業との組織対応型共同研究を増やし、大学研究の社会実装を強力に支援します!

企業には大学の先端科学が組み込まれた商品開発の支援を、大学研究者には社会ニーズに触発され新たな研究シーズが創出できるような支援を目指しています。



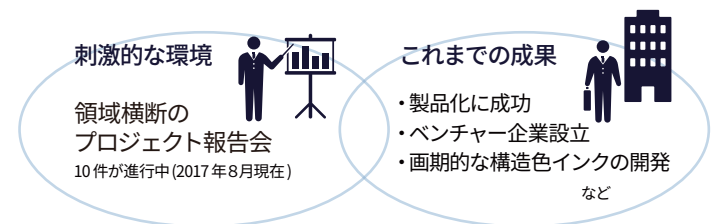
※当 URA 室は大学の研究力と大学・企業の特許情報などのデータ(IR: Institutional Research)に基づいた産業連携戦略を検討し、大学と企業のマッチングを行います。さらに、このマッチングが産み出す「価値」を様々な段階で確認する(=F/S:フィードバック・スタディ)視点を持って支援し、オープンイノベーションのための多組織対応型や社会実装の視点から望まれる包括連携型などの大型共同研究のための連携企画・マネジメントを実施します。

④ ベンチャービジネスラボラトリー (VBL)

教員や学生が持つイノベーションの種を探し、芽を育て、花を咲かせる!

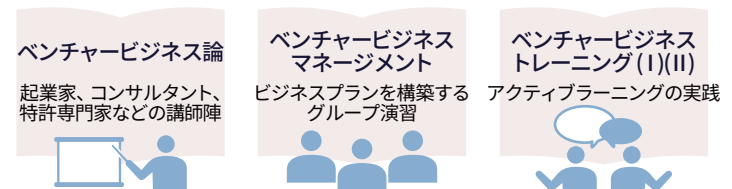
● 公募研究プロジェクト推進

新規産業の芽となる研究プロジェクトを全学から公募し、研究助成



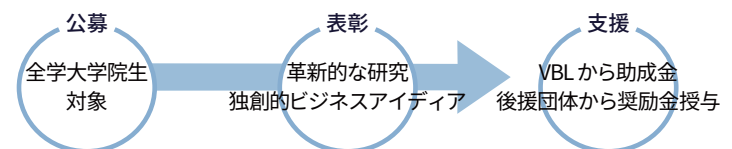
● ベンチャー関連講義開講

大学院生のベンチャーマインドを育成



● なのはなコンペ実施

新技術・新産業につながる研究やアイデアを発掘



後援団体
(株)光と風の研究所、日本インサイトテクノロジー(株)、公益財団法人双葉電子記念財団、千葉大学経済人倶楽部「絆」の団体



知識集約型共同研究拠点 (KCRC)

千葉大学知識集約型共同研究拠点 (KCRC: Knowledge-based Collaborative Research Center) は、西千葉キャンパス内に、企業等の研究拠点を設置し、本学との活発な共同研究により、本学の研究シーズの市場化を図るとともに、千葉県における知識集約型産業の企業立地を促進するため、ベンチャー企業の起業や事業化を支援することを目的としています。

KCRCには、ドライラボ13室、ウェットラボ5室(化学実験可能)、計18室が整備されており、現在、入居者を募集しています。

【KCRC ホームページアドレス】 <https://www.ccr.chiba-u.jp/kcrc>



サイエンスパークセンター (CSPC)

千葉大学サイエンスパークセンター (CSPC: Chiba University Science Park Center) は、西千葉キャンパス内に設置され、千葉県、千葉市等の産業支援機関、大学等の教育・研究機関及び産業界が連携して地域産学官共同研究を推進し、地域における関連人材の育成及び研究成果の産業への展開を図ることを目的としています。

CSPCにおいては、「医工連携」「ロボティクス」を重点研究分野として、本学と千葉県内外の企業との共同研究が行われており、平成28年度は、40件の共同研究及び20件の受託研究が実施されました。

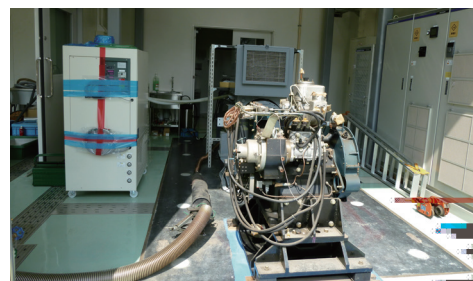
【CSPC ホームページアドレス】 <https://www.ccr.chiba-u.jp/cspc/>



ヨウ素研究室 (エバポレーターシステム)



X線CT撮影室 (X線CT撮影装置)



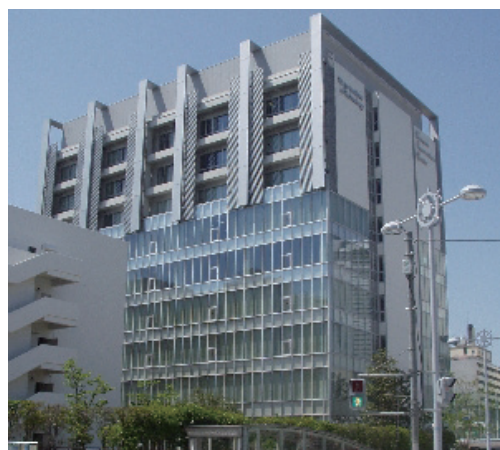
動力性能実験室 (交流式動力発生・吸収・計測装置)

東京サテライトオフィス (千葉大学605号室、オープンスペース)

千葉大学東京サテライトオフィスは、JR田町駅より徒歩1分のところに位置し、ここでは、企業関係者等と本学教員との共同研究・開発等に向けた技術相談等の知の発信に加え、千葉大学全体の活動を支援しています。

〒108-0023
東京都港区芝浦 3-3-6 キャンパスイノベーションセンター 605号室 (6階)

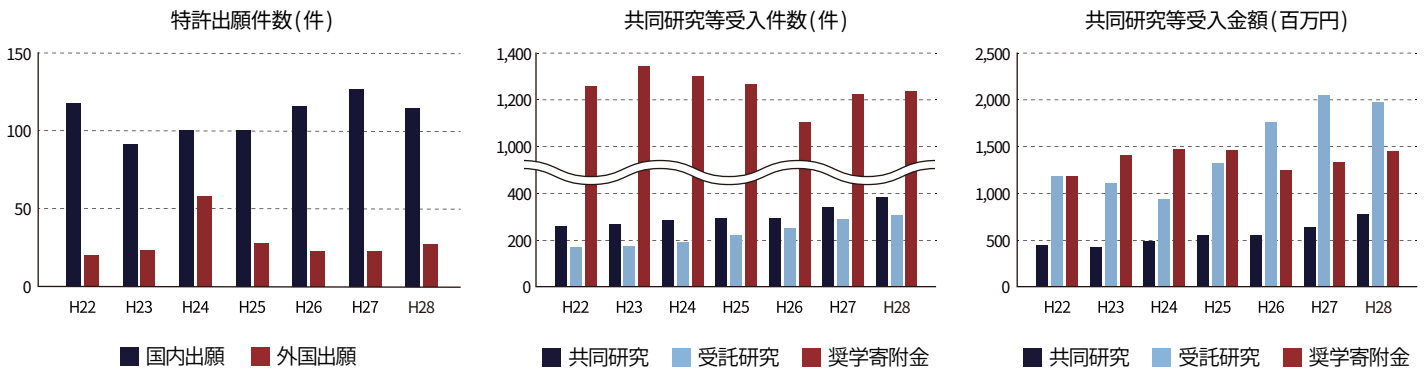
- ・予約状況確認【学内関係者用】
ステーション HP トップ>組織について>組織 (事業内容)>東京サテライトオフィス [予約状況]
https://www.ccr.chiba-u.jp/about/organization_tamachi_schedule/schedule.cgi?mode=viewlist
- ・予約受付連絡先【学内関係者用】
TEL : 043-290-3565 (内線 3565)
Eメール : r605001@cictokyo.jp



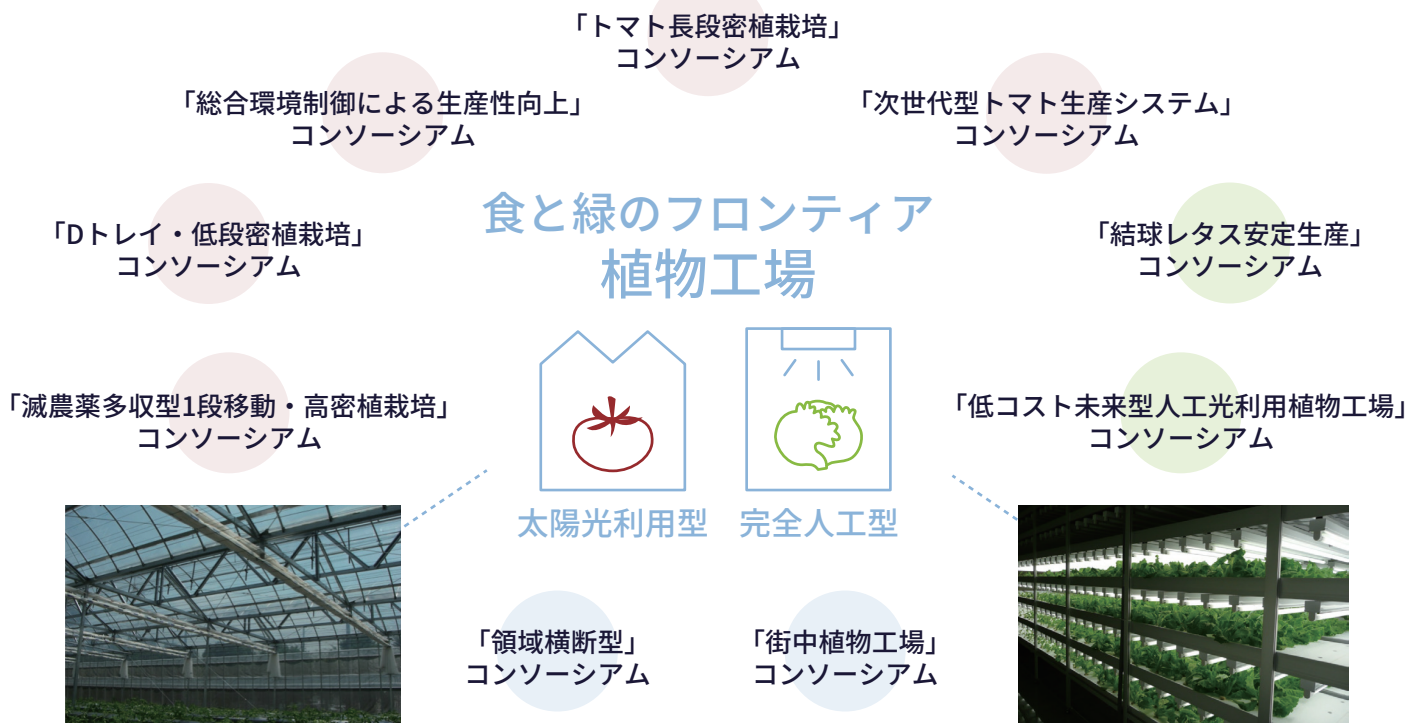


特許出願と共同研究などの推移

千葉大学の特許出願数、共同研究、受託研究および奨学寄附金の件数・金額は、下図のとおりです。千葉大学の教職員の多くは、企業の方々と一緒に技術開発や研究を行うことに大変興味を持つと同時に意義を感じておりますので、是非お気軽にご相談ください。



具体的な連携事例



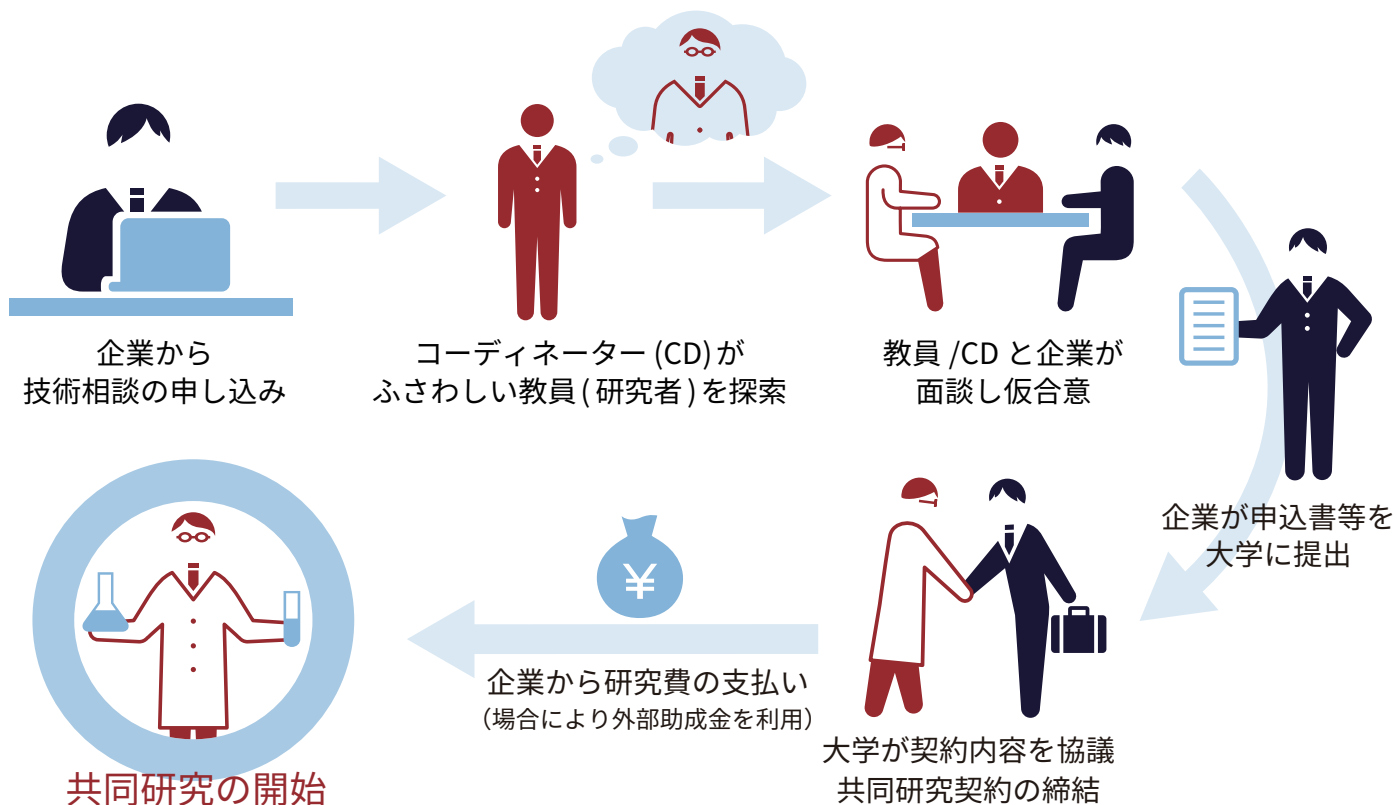
当プロジェクトには60社の民間企業が参画しています。9つのコンソーシアムを形成し、5つの太陽光利用型植物工場（いずれもトマトを栽培）、2つの完全人工型植物工場（いずれもレタス類を栽培）の実証実験に励んでいます。多彩な手法で「生産性の増大、コストの縮減」に取り組み、さらには領域横断的に植物工場の価値創出を目指すコンソーシアムがバックアップしています。

コンソーシアム単位で施設・設備の設計や詳細な事業計画を進めています。栽培対象作物を限定することで、コンソーシアム内で成果を競い合いながら、相互の情報交換や協力によってシステム開発や改善を促す協動的な競争環境を構築しています。





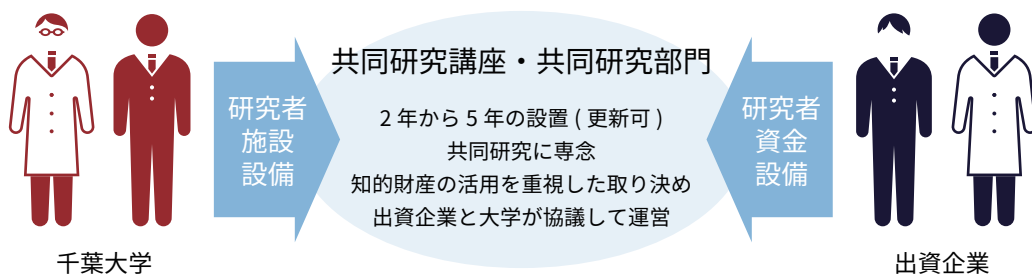
共同研究の流れ



共同研究申請に関する詳細については、ホームページをご覧ください ⇒ <https://www.ccr.chiba-u.jp/sangaku/>

「共同研究講座」および「共同研究部門」制度

企業からの資金提供にとどまらず、企業研究者を受け入れ、千葉大学の教員と対等な関係で一定期間継続的に共同研究にあたる組織です。千葉大と出資企業から選考し、教授または准教授1名、准教授または助教が1名つき、さらに企業研究者、ポスドク、大学院生、兼任教授、事務員などのチーム体制をとり、研究を進めます。



共同研究講座 (部門) の契約に関する手続きについては、ホームページをご覧ください ⇒ <https://www.ccr.chiba-u.jp/sangaku/>

千葉大学技術交流会 (千葉大学TLO) 会員特典

年会費1口100万円以上の特別会員、同10万円以上の会員A(主に大企業)、同5万円以上の会員B(中小企業)、同1万円以上の会員C(個人)および賛助会員(協賛金のみ、金額自由)に対して、以下の特典をご用意しています。

特別会員およびA・B・C会員

- 本学未公開特許の出願情報の優先開示
- 千葉大学の最先端研究・技術情報の提供
- 本学保有の特許実施に係る実施料の減額
- 本学研究者による調査研究、技術助言及び技術指導の斡旋とそれに係る料金の減額
- 技術移転に関わる技術相談及び指導並びにマッチング支援
- 研究成果の事業化支援
- インキュベーションのためのオープンラボ優先提供
- 大学発ベンチャーに対する経営、財務、法務、営業販売等の支援または支援の斡旋

特別会員への追加サービス

- 特許実施料の減額率の割増
- 特許発明者等による技術説明及び指導に係る料金の免除
- 講演会などへの招待
- その他、ご要望に応じた対応をいたします

賛助会員へのサービス

- 本学主催の講演会、シンポジウム、技術交流フェア等の情報提供

千葉大学 TLO の詳細については、ホームページをご覧ください ⇒ <https://www.ccr.chiba-u.jp/guide/>



特任教授 **北村 孝司**

副所長

1972年千葉大学工学研究科修了後、千葉大学助手として教育研究に従事、2013年 定年退職、千葉大学名誉教授。研究分野は有機感光体物性、レーザー熱転写記録、トナーディスプレイ、電子ペーパー等。2006年から技術移転推進部部長を務め、2014年副所長。千葉大学の研究シーズの発掘と大学、産業界、千葉県等との産学官連携を行っています。



黒岩 眞吾

副理事(産業連携研究)・副所長

国際通信キャリアの研究で音声認識・機械翻訳技術の研究及び実用化を経験した後、情報工学分野の教授としてAI技術を活用した福祉情報機器の研究・開発・社会実装を推進。Microsoft Innovation Award 2014等、企業との共同研究による受賞多数。企業の皆様が抱える問題の本質を読み解き「第3の案」の創出をお手伝い致します。



特任教授 **小柏 猛**

産業連携コーディネーター

【専門分野】 化学、知財

化学メーカー、光学機器メーカーといずれも特許業務に従事した後、JSTに入り6年間産学連携業務に従事。これらの経験を活かして本学シーズと企業ニーズとのマッチングを図り、皆様のお役に立ちたいと考えております。ご遠慮無く、ご用命ください。



村上 武志

産業連携コーディネーター

【専門分野】 電気・電子工学系、情報系、機械工学系

電機メーカーで家電と情報機器の研究、製品企画・販売を経験し、その後日本から中国、韓国、ASEAN諸国に対する技術移転事業の運営に携わりました。共同研究や技術移転等の知的財産に関連する各種契約の相談に応じつつ、産学連携プロジェクト推進のお手伝いを致します。



竹内 延夫

産業連携コーディネーター

【専門分野】 理学博士(物理学専攻)/環境、物性、レーザー、光学、計測

我が国や米国・カナダの大学等においてレーザー・物性研究に、環境省研究所や千葉大学において光計測、リモートセンシングの研究・教育に従事。物性、レーザー、光学、分光、物理を基礎とする計測分野や物質・環境分野についてご相談ください。



鈴木 明

産業連携コーディネーター

【専門分野】 工学修士(印刷工学専攻)/画像工学系(材料、プロセス)

精密機械メーカー入社、企画、特許、研究開発部門、5年間の欧州R&D駐在を経験し、サーマルリライタブル製品、複写印刷材料製品の商品化を立ち上げ、事業化推進。後年、電子ペーパー、プリンタブルエレクトロニクス関連の技術企画を担当し、国家プロジェクト立ち上げに貢献。



橋本 智明

産業連携コーディネーター

【専門分野】 園芸科学

東京都へ就職。農業、特に東京の伊豆諸島・小笠原諸島の農業振興に関わり、研究・普及・行政部門を担当。生産者のみではなく、消費者目線で事業に取り組み、園芸関係を担当致します。大学の知財に、より多くの方々に関心を寄せられるよう心掛けています。



加納 敏夫

産業連携コーディネーター

【専門分野】 工学修士(写真工学専攻)、画像工学系(工学、計測)、研究戦略、ベンチャービジネス立ち上げ

精密機械メーカー入社、研究開発、企画、理化学研究所派遣、8年間のアメリカシリコンバレーにて研究所立ち上げと運営、アメリカでベンチャービジネスの立ち上げ、文部科学省派遣。これからは、千葉大学を通じて、日本・世界の人類のために貢献致します。



特任教授 **内田 武**

知財活用マネージャー

【専門分野】 薬学博士、薬剤師/医療ビジネス、グローバル医薬・医療系ビジネス、臨床研究、ライフサイクルマネジメント

製薬企業にて国内臨床開発、米国での新薬開発、そしてグローバルマーケティングヘッドとしてグローバル製品のライフサイクルマネジメントを担当。5ヶ国の訪問経験、世界の医学・薬学研究者とのネットワークを活用し、『知財』+『その後のビジネス展開』について貢献したいと考えています。



特任准教授 **河野 敬介**

知財活用マネージャー

【専門分野】 工学修士、弁護士/電気工学系、知財財産法

大手電機メーカーの知的財産部門で、モータ、発電機等の特許関係の業務に約5年間従事し、その間発明の発掘、特許出願手続、特許ライセンス交渉等の知財業務を経験しました。企業での知財業務の経験を活かして企業、大学の両者にとって利益となるような技術移転活動を心掛けています。



特任教授 **沼口 徹**

シニアURA(産業連携研究推進)

【専門分野】 工学博士、科学、エンジニアリング、事業性検討、公的評価委員経験多数

岡山大学、東京工業大学での研究支援(研究大学強化ファンド(2億円×10年間)やSIP獲得)経験、民間時代の研究(学会賞2件)・経営(事業化検討@外資)の経験を活かし、企業様に大学の先端科学の実装を、研究者に社会ニーズも映した研究シーズの獲得ができるよう、共同研究を通してご支援致します。



特任准教授 **片桐 大輔**

URA(産業連携研究推進)

【専門分野】 薬学博士/ベンチャー企業支援、知財管理、産学連携、研究マネジメント

研究成果の実用化を専門領域として活動中。バイオ系大学発ベンチャーを起業し、現在も取締役として参画。他に複数のベンチャー起業支援を実行。ベンチャー企業に関する講義も行う。第12回(平成26年度)産学官連携功労者表彰(経済産業大臣賞)受賞。知的財産の活用、起業等により研究成果の実用化に関心のある方は是非お声がけください。



特任研究員 **竹村 佳昭**

URA(産業連携研究推進)

【専門分野】 工学修士(応用化学)、材料科学、数値シミュレーション、産学連携国家プロジェクト

電機メーカー出身。研究所で半導体のプロセス・デバイスシミュレーションを経験したのち、技術研究組合に出身してNEDOのプロジェクト管理、本社部門に復帰して傘下研究所の国家プロジェクトと産学連携のとりまとめをしました。色々な経験をもとに産学連携を支援していきたいと思えます。

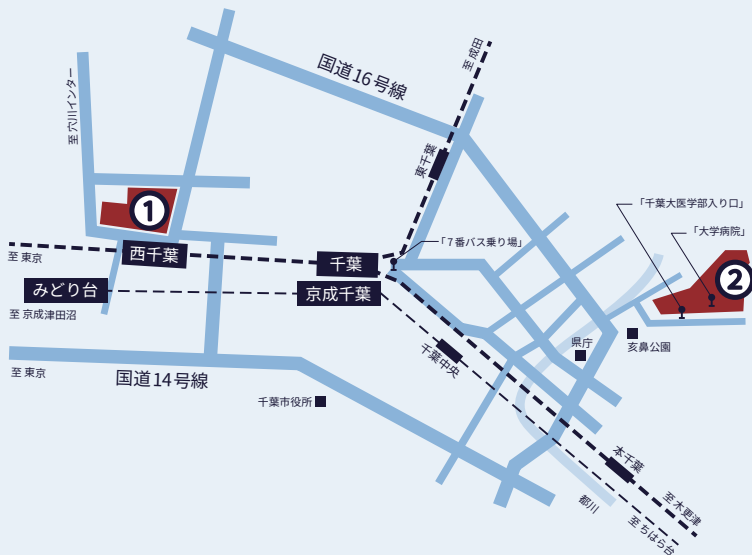


特任研究員 **渡邊 史武**

URA(産業連携研究推進)

【専門分野】 工学修士(化学工学専攻)、反応化学、エンジニアリング、マーケティング

エンジニアリング会社で触媒・反応プロセスの開発・商品化、外資系精密機器メーカーで商品開発・マーケティング(アジア)に従事。これらの経験を活かし、社会ニーズと大学の研究シーズのマッチングに注力して企業様との共同研究を実現し、科学技術の社会実装に貢献いたします。



① 西千葉地区

JR 西千葉駅下車一徒歩約1分
 京成みどり台駅下車一徒歩約5分
 〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33

② 亥鼻地区

JR 千葉駅、京成千葉駅下車、
 JR 千葉駅東口正面7番バス乗り場より
 「千葉大学病院」行きまたは「南矢作」行き乗車(約15分)
 「千葉大医学部入口」下車
 (医学部付属病院へは、同バス「千葉大学病院」下車)
 〒260-0856 千葉市中央区亥鼻1-8-1



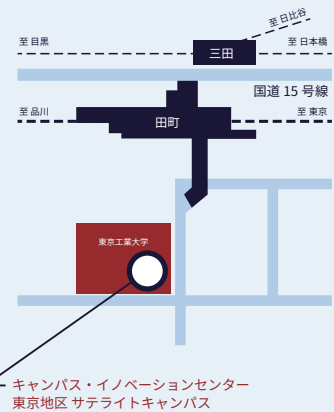
③ 松戸地区

JR 松戸駅、
 新京成線松戸駅下車一徒歩約15分
 〒271-8510 千葉県松戸市松戸648



④ 柏の葉地区

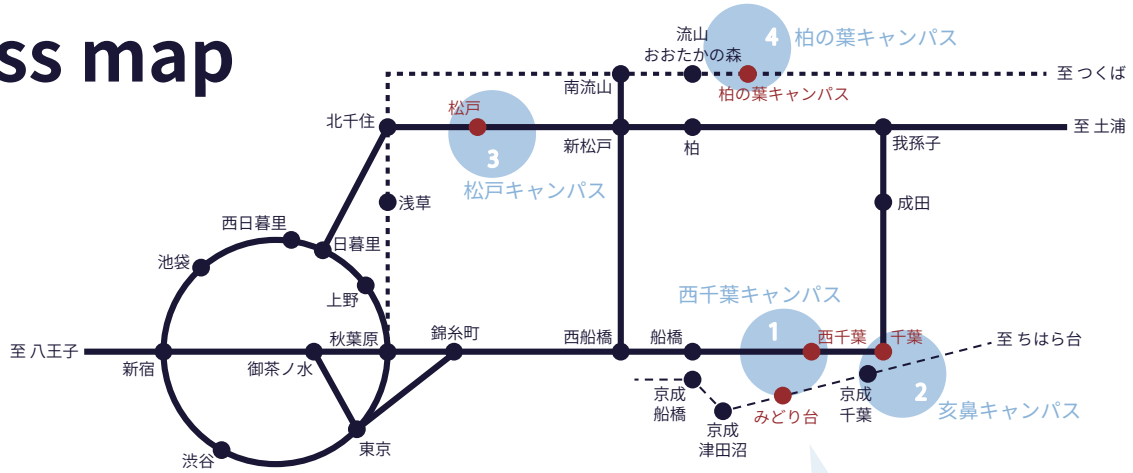
つくばエクスプレス
 柏の葉キャンパス駅下車一徒歩約5分
 JR 柏駅、東武柏駅下車、西口2番バス乗り場より
 「国立がん研究センター」行き乗車(約20分)
 「柏の葉高校前」下車一徒歩約8分
 〒277-0882 千葉県柏市柏の葉6-2-1



○ 東京サテライトオフィス

JR 田町駅下車一徒歩約1分
 都営三田線・浅草線三田駅下車一徒歩約5分
 〒108-0023 東京都港区芝浦3-3-6
 キャンパス・イノベーションセンター
 605号室(6階)
 TEL&FAX : 03-5440-9103
 E-mail : r605001@cictokyo.jp

access map



千葉大学 学術研究推進機構 産業連携研究推進ステーション (西千葉キャンパス内)

お問い合わせ

TEL : 043-290-3565
 FAX : 043-290-3519

E-mail : ccrcu@faculty.chiba-u.jp
 URL : <https://www.ccr.chiba-u.jp/>